

②Pangung Krapyak

人文社会科学部 2 年

1. Pangung Krapyak (パンゲン・クラピャック) の概要

パンゲン・クラピャックは、1789 年にハメンプワナ 1 世によって建設された狩猟用の建物で、現在はユネスコ世界遺産「ジョグジャカルタの宇宙論的軸とその歴史的景観」の一部に指定されている。宇宙論的軸の南側に位置し、人間の「誕生」や「母体」を象徴する場所とされている。



パンゲン・クラピャックの外壁（左）と窓から見た内部の様子（右）

2. 詳細説明

①位置と宇宙論的意義

ジョグジャカルタは、北のメラピ山（男性原理・神聖な山）から南のインド洋（女性原理・女神ラトゥ・キドゥルの世界）へ至る軸線上に設計されている。クラトン（王宮）を中心にモニュメントや建造物が並び、その南部にあるのがパンゲン・クラピャックである。この世界遺産の一直線上に並んでいる主要スポット（メラピ山・トゥグ・クラトン・パンゲン・クラピャック・インド洋）の配置は、「計画されたもの」である、という説が学界・公式記録で支持されている。特にスルタン・マンガクブミがジョグジャカルタの都市設計にこの軸を含める意図をもっていたという記述が複数ある。ただし、「設計証明書」「当時の設計図」などの最も確かな一次資料に関しては、私が調べた範囲では見つけれなかった。完全に裏取りされた証拠は不十分な状態であるのかもしれない。

パンゲン・クラピャックは、哲学概念「サンカン・パラニン・ドゥマディ（誕生・成人・死の人間の通過儀礼）」のうち、「誕生」を象徴する場所とされ、トゥグ（男性原理のリングを象徴する場所）と対になる女性原理のヨニと解釈される。

②歴史的背景

「クラピャック」は「狩場」を意味し、当時はこの場所に密林が広がっていた。また、

この建物は「鹿の檻（*Kandang Menjangan*）」とも呼ばれ、スルタンが狩猟を行い、屋上から獲物を狙っていたと考えられている。

建物は長方形 2 階建て（15m×17.6m、高さ 10m）で、現在も保存・修復対象となっている。

③文化的意義と地域の記憶

周囲にはかつて「Umbul Krapyaku（水源/泉）」が存在し、すでに消失しているものの、地域の人々の生活や狩猟文化と結びついた重要な記憶として語り継がれている。つまり、この場所の価値は単なる建築物に留まらず、人々の記憶や文化的形象によって支えられている。

④世界遺産登録

2023 年、ユネスコ世界遺産「ジョグジャカルタの宇宙論的軸とその歴史的景観」に登録された。その理由は、「ジャワの宇宙論を体現する都市空間構造であること」と、「歴史的建造物の保存状態が良好であること」である。

3. まとめ

パンゲン・クラピャックは単なる狩猟のための建造物ではなく、宇宙論的軸に組み込まれた「誕生の象徴」としての哲学的意味を持つ。また、消失した泉や地域の語り継ぎによって、物理的建物以上の文化的価値を維持している。こうした点が評価され、世界遺産として保護されている。